

根来山げんきの森倶楽部

令和7年9月作業日誌

活動日：令和7年9月21日(日) 9時分30〃

天気：晴れ

倶楽部員：40人

うるし谷整備

山口 俣

うるし谷へ今日は男性3名女性2名の5人で向かいました。

まず、階段2段を補修しました。うるし谷には階段がたくさんあるので、常に補修している感じです。

次に、溝川に茂っている雑草やツルの除去作業を行いました。5人で川の中に入り、川底の雑草やツルは手で引き抜き、側面のものは窯で刈り取りました。また、イノシシに荒らされてぼこぼこに崩れている個所は新しく杭を打って補修しました。女性たちもずいぶん上手に杭打ちできるようになってきています。

休憩時には今回もNさんの奥様手づくりのお菓子で一息つきました。いつもありがとうございます。

お昼はうるし谷で三人で食べて、午後ものそのメンバーで溝川の雑草除去作業を行いました。なかなか時間のかかる作業でしたが、作業終了後の溝川は見違えるほどすっきりした風景でした。

最後に今まで切り倒した木の小枝を整理しました。これも時間のかかる作業なので、全部できずに本日は終了しました。

炭焼き

坂本 幸三

本日は12人の参加で作業を行いました。午前中は先月(8月)の活動日に窯入れし、後日焼き上げた炭を窯から取り出し、今回は2種類の長さ(約25cmと10cm)にカットして一袋10kgに詰め込む作業です。出来上がりは25cmカットが8袋と10cmカットが18袋、合計で26袋260kgの収量がありました。

午後からは次月活動日に収穫出来るよう新たな炭材の立込みを行いました。炭材置場から炭窯入口まで一輪車で運び、手渡しで窯内まで詰め込みます。これの何度かの繰り返しで、猛暑日の作業はかなりの負担になりますが、本日はやっと涼しい風も時折吹いてくれて少し助かりました。最近の収量も250kg前後で安定しており、炭材立込みのところから好要因になっているのかと思います。本日の最終作業は炭窯入口の閉鎖です。窯炊き時の煙が漏れないよう石を積み重ねつつ、練った赤土ですき間を埋めつつ最上部まで、これも地味に大変な作業でもあります。今回3人の方の連携作業で良い感じで仕上がり、午後の作業を終了しました。皆さんお疲れさまでした。



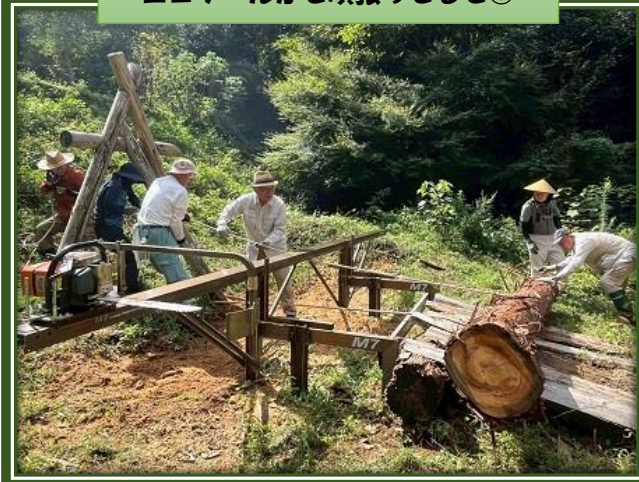
4月から始まったチッパーの作業も、定例活動日としては5回目になるでしょうか。なんとなくマシンのご機嫌が悪い状態で、これまでメンテを繰り返し、なだめながら使ってきました。とうとう先月、負荷がかかりすぎたのか、回転ベルトがモクモクと煙を上げて焼け切れてしまいました。すぐにMさんが交換パーツを買いに走ってくれましたので、皆で試行錯誤しながら交換を試みましたが、入り組んだ構造のため、無理して分解するのを避け、「メーカーに確認するのが安全」と、持ち越しとなっております。その後、1か月の間にHさんが修理してくださったとのこと。かなり昔の装置のため、取扱説明書も入手できず、メーカーに電話で状況を聞きながらの作業だったとのこと。ちなみに前回持ち越しの理由と/なった「油圧ホースを外すべきか否か」の問題については「外す」が正解だったとのこと、結局一番厄介なパターンの大手術だったそうです。修理のついでにいろいろ調整してくださって、これまで非力な感じでプスプスとかかりづらかったエンジンが、なんとキーを回すと一発で軽々回り出し、その後トラブルなしの絶好調でした。積み上げられていた枝も、毎日の日照りでいい感じに乾燥しており、生皮が軸に巻きつくトラブルもなく粉碎されました。あまりに快調すぎて、午前中で全て完了してしまいましたが、今年一番に暑い定例活動日なので、丁度よかったかもしれません。

平成9年式のビンテージカーですもんね。。。でも、古いようでいて、クラブ員の皆さんに比べればまだまだ若造。あと20年は頑張れ！チッパー♡

チッパー！やればできる子やん ☺



ロゴソールかて頑張ってるで☺



先月で枝の粉碎(チッパー)がひと段落しましたので、今月は久々のロゴソールです。まずは、現地で草を刈り場所づくりをするチームと、第二駐車場に仮置きされたヒノキを製材場所まで運ぶチームの二手に分かれ、それぞれ作業しました。当初は林内作業車(リンナイ)でまとめて4本運ぶ予定でしたが、急いで別の場所に向かわねばならないそうで、時短のためさしあたっては2本だけ運びました。大木を運ぶにはリンナイのパワーが不可欠なため、あちこちの場所で大活躍のマシンですね。材木が現地につくとすでに作業場所は準備万端整えられていました。ロゴソールは、長い直線のレール(5~6mくらい?)が水平に敷かれており、それに沿って平行に丸太を置き、レールを定規としてチェーンソーで縦引きする仕組みの設備です。丸太を置く台は高さ調整ができるようになっているため、切り出す板厚を調整できます。レールの高さは作業しやすいように胸の高さくらいに固定してあるので、丸太もその高さなりに持ち上げてセットしなければなりません。板材にするくらいのもので、幅を確保できるよう結構な直径がありますから台まで持ち上げるのも工夫が必要です。地面から台まで緩めの傾斜で何枚かの板を渡して坂を作り、上手側から、まるで巻き簾で海苔巻きを作るかのように、ロープで巻き上げながら転がしてセットします。下手側からも何人かで丸太を押してアシストします。リンナイでなければ運べなかった大木が、まあまあ簡単に人力で坂を上って行く様には、知恵の大切さを実感します。木口に墨付けして目標の板厚が決まったら、全員が耳栓やイヤーマップルをして、フルスロットルの爆音に備えます。いよいよカット。ただチェーンソーを押しているだけのように見えるのですが、やってみるとまあまあ力も必要な作業であることがわかりました。1本の木から、板材を5~6枚は切り出せたでしょうか。板面もきれいに仕上がりました。



里山整備 岡田 和久

今回はバリアフリートレイル脇の太いコナラの枝が枯れて先の方から落ち始めているものがあったので枝の根元から切り取りました。

枝と言っても太さ 40 cm 程もある太いもので、それが歩道の上側の斜面から歩道に向けて張り出しているの、普通に切ると手すりを壊してしまいます。

そのため、枝の中ほどにロープを掛けて、このロープをローププラーで斜め上方に引き上げながら手すりに係らないように慎重に横倒しさせました。

途中で引綱だけでは不安になって、斜面上方にもう一本の控えロープを留めて作業を続けました。

予定していた位置よりは少し下向けに倒れましたが手すりも無事でやれやれ。もう一本切り取りたい枝があるのですが、作業の途中で林内作業車の調子が悪くなり中止しました。

でも、バリアフリートレイルに枯れ枝が落ちてくる危険はなんとか除去することができました。

みなさんお疲れさまでした。



事務局から

「サクラの葉が消えた」

この夏、げんきの森のサクラの葉が消えてしまいました。

犯人はモンクロシャチホコというガの幼虫。大量発生して葉を全部食べてしまったのです。今までもサクラの葉が食べられる被害はありましたが、こんな大量発生は記憶にありません。9 月には大量のフンが管理車道を茶色に染めていました。

サクラの仲間は葉でアブシジン酸という花の開花を止める信号物質を生産して蕾に送り届け、来春まで花が咲かないような操作をしているのですが、蕾にこのアブシジン酸が十分貯まらないうちに葉が消えてしまうと蕾は成長を再開し、花を咲かせてしまいます。すでに、10 月初めにはあちこちのサクラに花が咲き始めました。この傾向は毎月いっぱい続きそうで、来年咲くサクラの花はその分少なくなりそうです。

何とも迷惑な虫が大量発生したものです。



今月の1枚

